

第一生命保険株式会社

2016年アナリスト・デー

2016/9/13

一生涯のパートナー

第一生命

本日のスケジュール

一生涯のパートナー

第一生命

時間	テーマ	スピーカー	役職
10:00～10:15	開会のご挨拶	渡邊 光一郎	第一生命保険株式会社 代表取締役社長
10:15～10:45	第一生命グループのERM	稲垣 精二	第一生命保険株式会社 取締役常務執行役員
10:45～11:15	国内営業戦略	寺本 秀雄	第一生命保険株式会社 取締役専務執行役員
11:15～11:25	<休憩>		
11:25～11:55	第一生命の運用戦略	山本 辰三郎	第一生命保険株式会社 執行役員
11:55～12:30	第一フロンティア生命の経営戦略	金井 洋	第一フロンティア生命保険株式会社 代表取締役社長
12:30～13:30	<昼食>		
13:35～14:15	第一生命ベトナムの経営戦略	チャン ディン クアン	第一生命ベトナム 社長
14:15～14:55	TAL・オーストラリア保険市場の概要	ブレット クラーク	TAL グループCEO兼社長
14:55～15:05	<休憩>		
15:05～15:55	質疑応答	役員一同	

開会のご挨拶

代表取締役社長
渡邊 光一郎

一生涯のパートナー

第一生命

第一生命は10月1日、持株会社体制へ

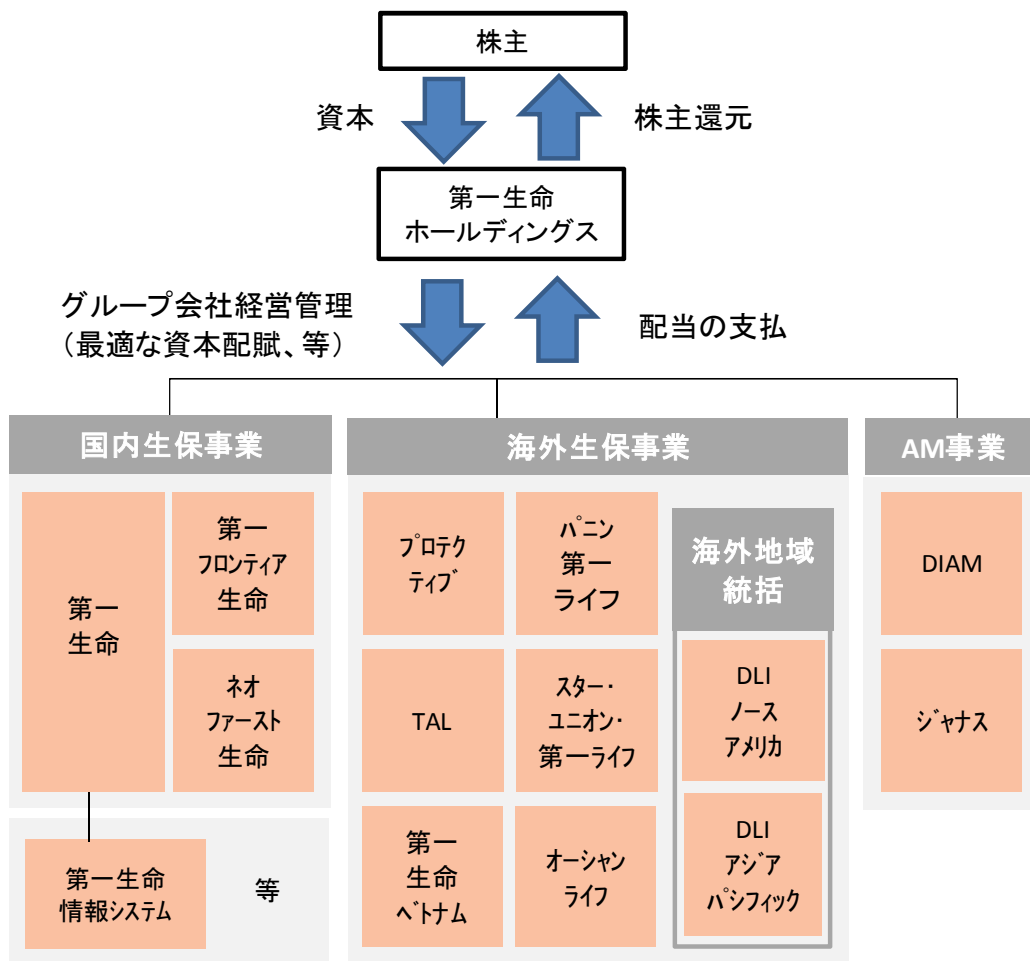
一生のパートナー

第一生命



第一生命ホールディングス

持株会社体制移行のメリット



グループの持続的成長を加速



グループベースでの柔軟な経営資源配分

傘下会社での迅速な意思決定に資するガバナンス体制の構築

グループ運営スタイルの抜本的変革

ガバナンス態勢の強化：監査等委員会設置会社へ

第一生命ホールディングス



重要な業務執行の
決定を一部委任

指名諮問委員会

報酬諮問委員会

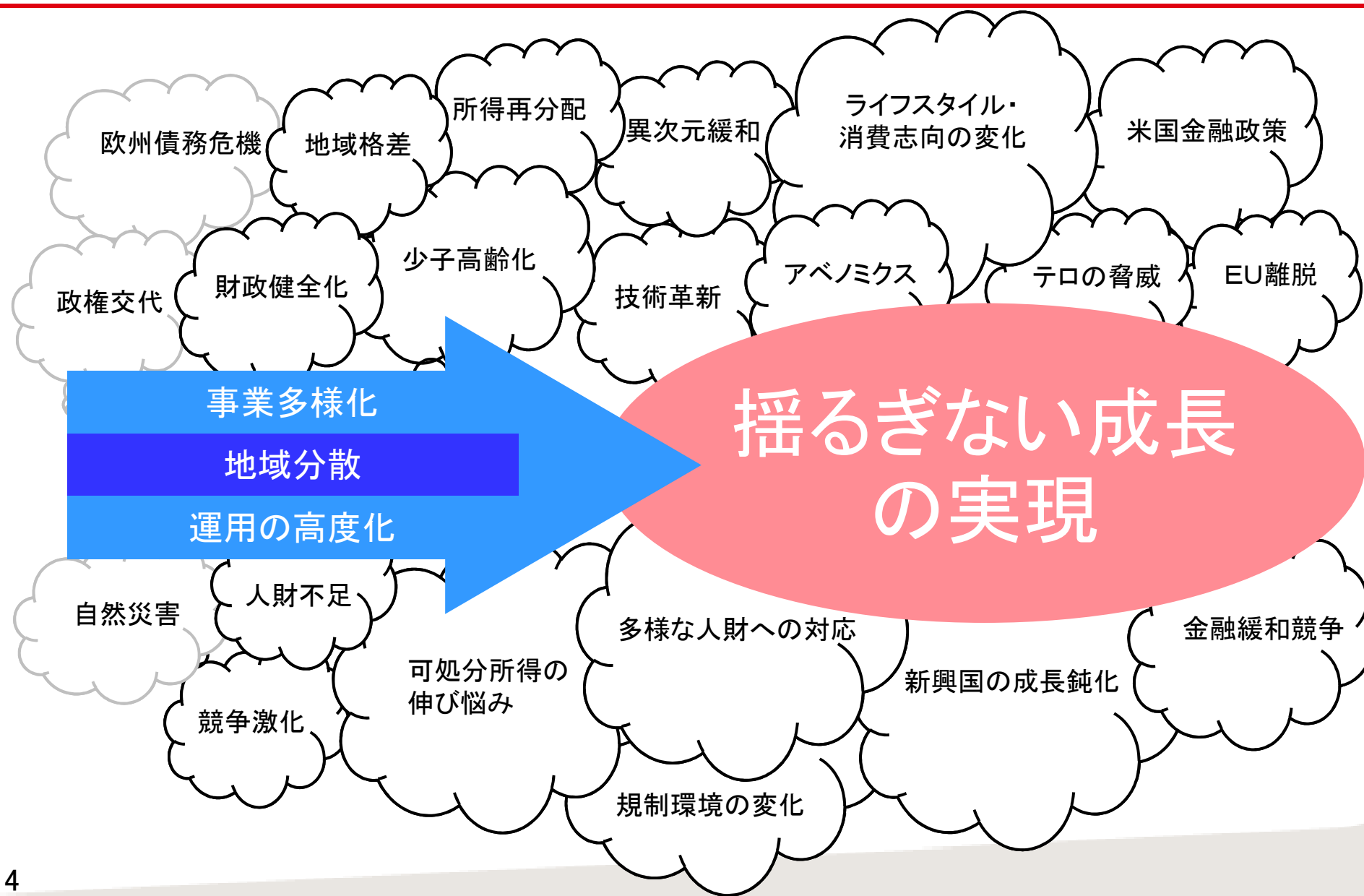


社内取締役

社外取締役

社外取締役1/3以上へ

変化対応力のある経営基盤を確立

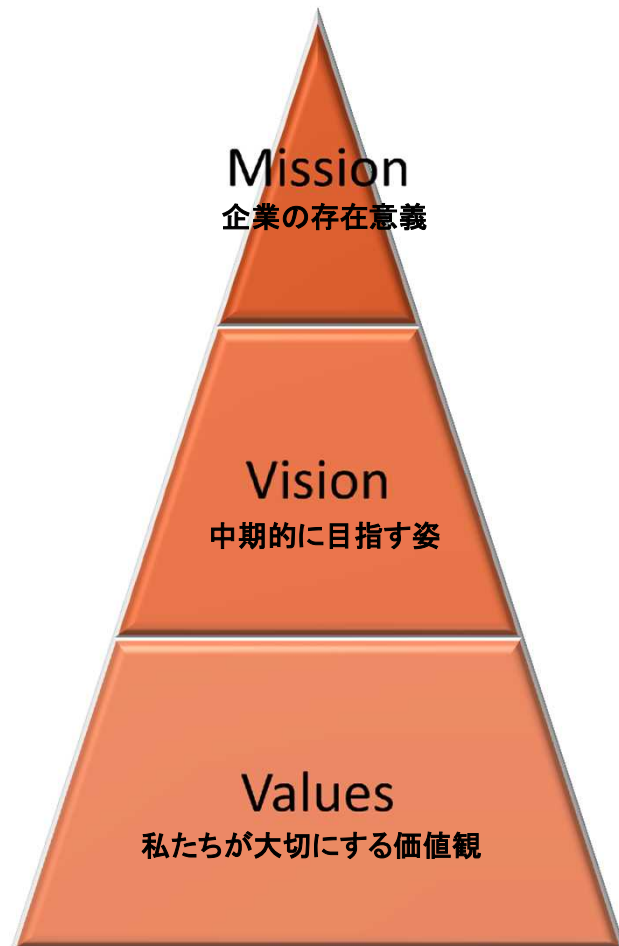


第一生命グループの理念体系

一生涯のパートナー

第一生命

グループ理念体系の共有により、グループ各社が、それぞれの地域や国で、生命保険の提供を中心に人々の安心で豊かな暮らしと地域社会の発展に貢献します。また、グループ戦略の共有により、各社がベクトルを合わせてグループ価値の最大化と持続的な成長を目指します。



一生涯のパートナー

いちばん、人を考える会社になる。

いちばん、
品質の高い会社

いちばん、
生産性の高い会社

いちばん、
従業員の活気あふれる会社

いちばん、
成長する期待の高い会社

グループ企業行動原則(DSR憲章)

お客さま満足

コミュニケーション

コンプライアンス

人権尊重

ダイバーシティ&
インクルージョン

環境保護

社会貢献

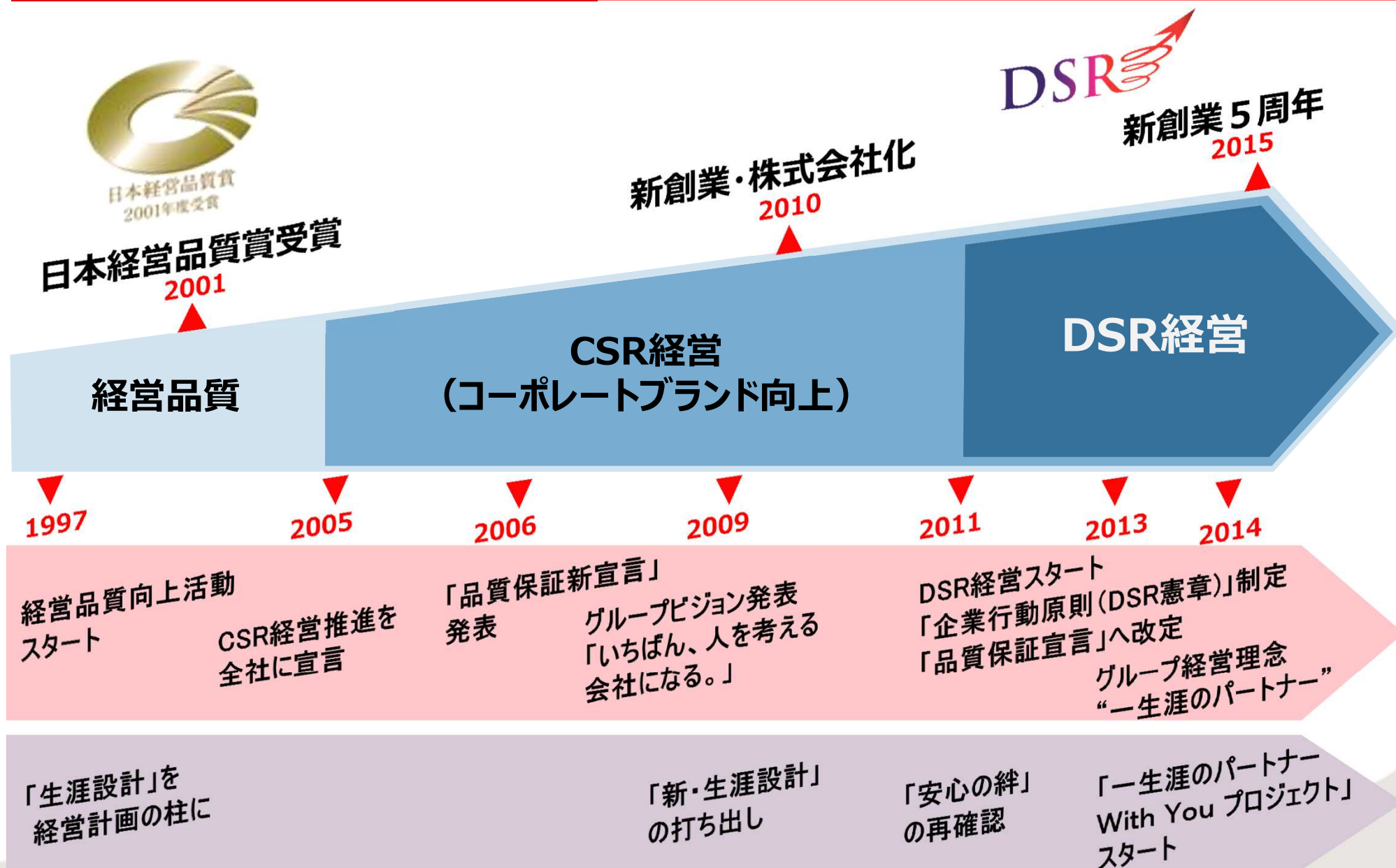
健康増進

以上の8つの原則、経営資源の有効利用・業務の生産性向上、財務基盤の維持・強化によって、持続的な企業価値の創造に取り組めます。

価値創造経営の枠組み ～経営品質からDSR経営へ

一生涯のパートナー

第一生命



DSR経営とは



マルコム
ボルドリッジ
MB賞



日本経営品質賞
2001年度受賞

日本
経営
品質賞

QC

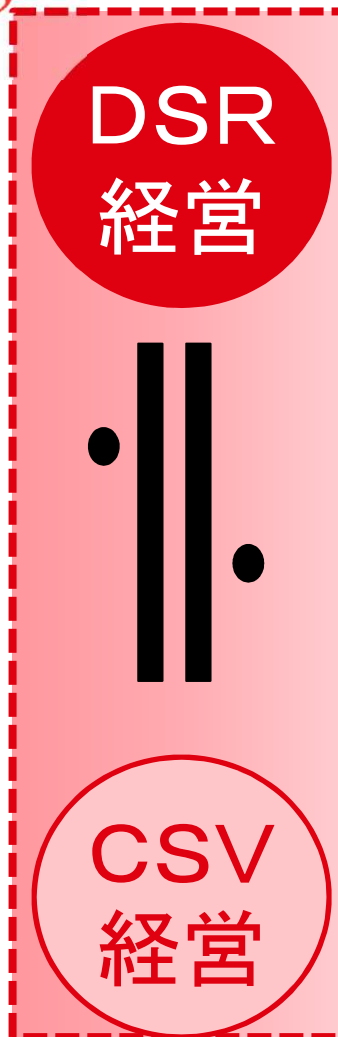
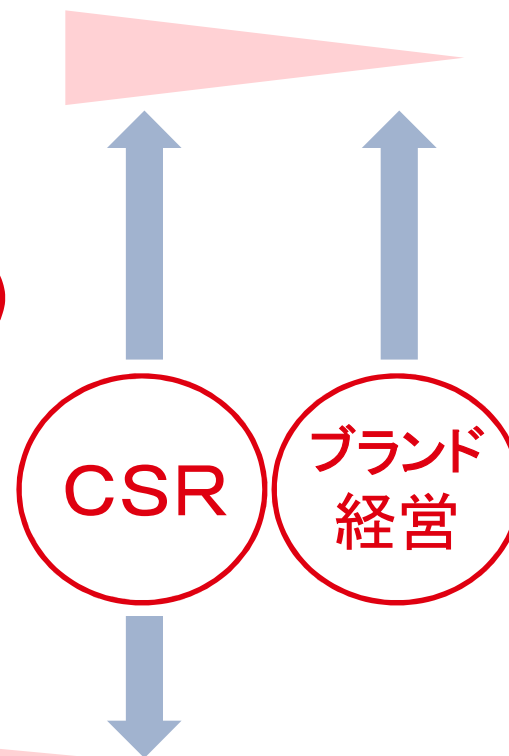
TQC

- 顧客満足の改善・実施に優れた経営システムを有する企業に授与される賞。国家経営品質賞とも呼ばれる。



マイケル・ポーター

DSR

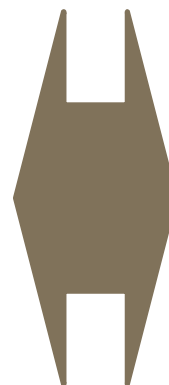


第一生命グループの目指す “総合経営”

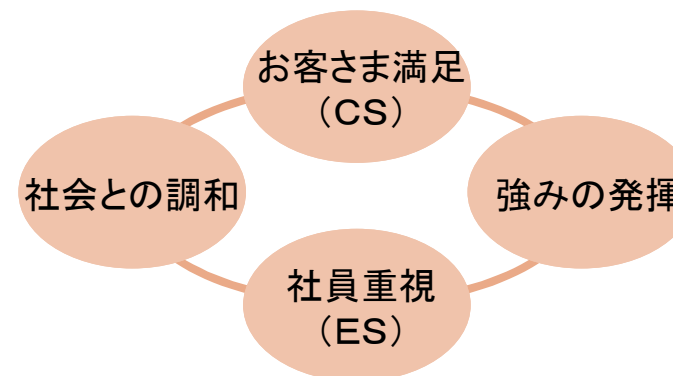
本業をコアとした経営計画の実践

持続的価値創造の実現

各部署・職員による
総合経営を実践



“総合経営”を実践するのに
最適な枠組みが“経営品質経営”



DSR経営

海外生命保険事業：海外市場における事業展開

一生涯のパートナー

第一生命

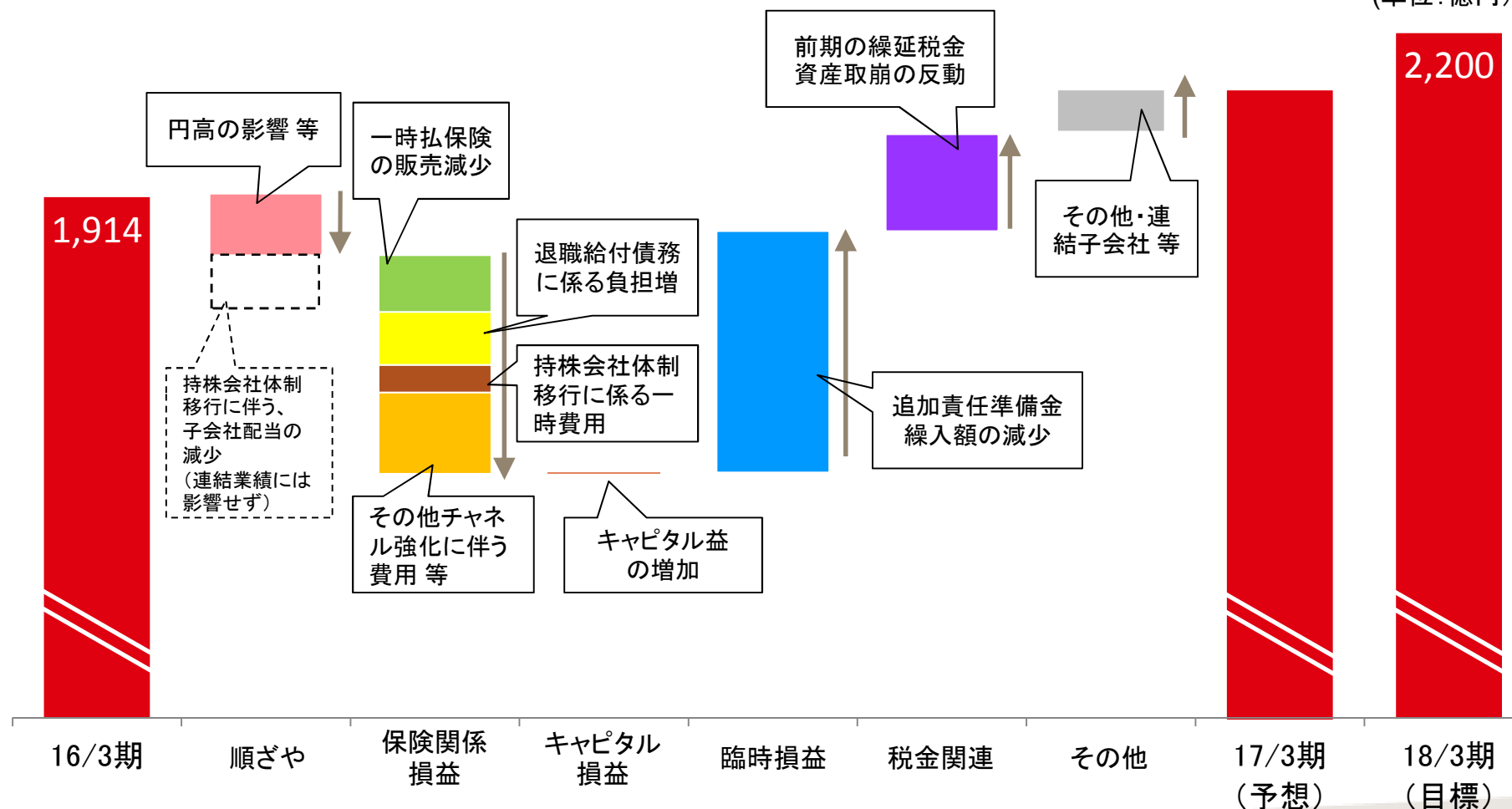


※2016年10月1日付で「DIAMアセットマネジメント」から変更

(再掲) 連結修正純利益で2,200億円の達成を目指す

- 2017年3月期の連結修正純利益は、安定した利益の計上を見込む。2018年3月期にかけても、中計の目標水準2,200億円に変更なし。

(単位: 億円)

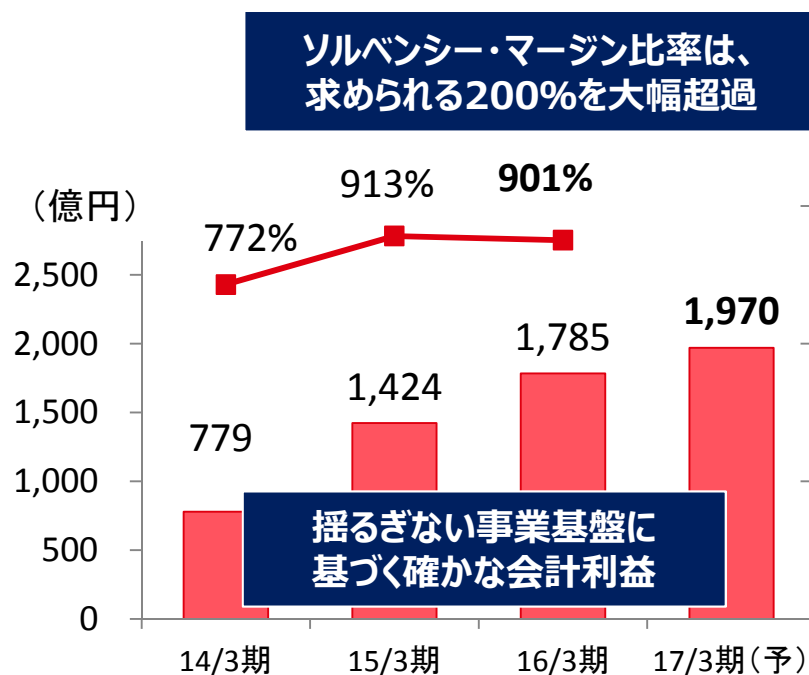


(1) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

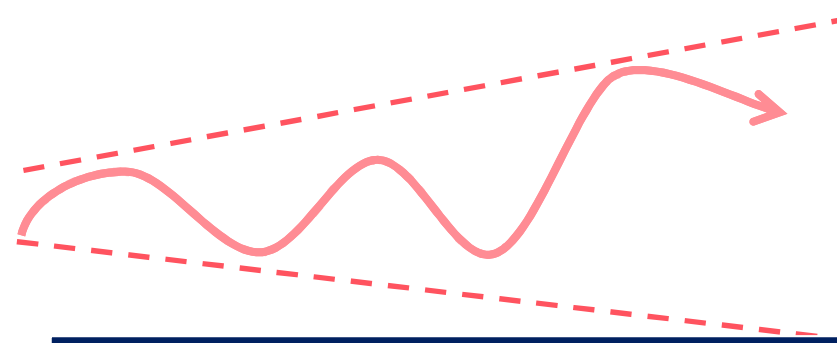
(再掲)「経済価値指標が意味するもの」とERM

- 足元の経済環境にも係らず、当社の会計ベースの指標(利益など)は確実に伸展。揺るぎない事業基盤に基づき、業績への影響は、短期では限定的。
- 国内金利の更なる低下により、経済価値ベースの指標(EVなど)は影響を受けているが、この意味するものは、ダイナミックに動く金融市場環境の中で、現下の指標(とりわけマイナス金利)をスナップショットとして抜き出し、今後数十年間の当社利益の計算前提とした「1つのシナリオ」に基づく結果。

現行会計ベースの実績



経済価値指標が意味するもの



将来利益の推計(内部モデル)における「1つのシナリオ」として経済価値指標が悪化

- 現在の経済環境が数十年続く前提であり、その蓋然性を冷静に見極める必要
- 他のシナリオ実現の可能性も十分に考慮に入れた経営行動を志向

- 政府の経済財政政策等を踏まえた金融市場の動向や、国内外における経済価値ベースの資本規制の検討状況など、外部環境の変化とその時間軸を考慮に入れた中長期視点でのERMを継続